

# 多層指導モデルMIMを用いた学力向上を意図した特別支援教育の活用（第一報）

## —小学1年生を中心に—

末延 久美（A市教育研究所）<sup>1</sup>

是永かな子（高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門  
高知ギルバーグ発達神経精神医学センター）<sup>2</sup>

岡崎 由佳（A市教育委員会）<sup>3</sup>

## Utilization of Special Needs Education intended to Improve Academic Achievement with Multitier Instruction Model MIM (1st Report); -Focusing on elementary school first grader -

Kumi Suenobu<sup>1</sup> and Kanako Korenaga<sup>2</sup> and Yuka Okazaki<sup>3</sup>

1: Institute of Education in A City 2: Kochi University Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster Education Unit, Kochi Gillberg Neuropsychiatry Centre

3: Board of education in A City

### 抄 録

本稿では、A市における小学校1年のMIM-PM実施に関する結果を示し、特殊音節の練習と語彙力の向上に着目して、支援策を検討した。MIM-PM第1回目の結果として、子どもの実態把握は極めて多様であり、1stステージ、2ndステージ、3rdステージの子どもが混在する学級集団が可視化された。個々の子どもの多様性のみならず、集団としての多様性を考慮して、想定される支援策をまずは日々の授業を想定した一斉指導の場で試行してみることが必要であろう。1stステージ、2ndステージ、3rdステージと修得段階に差がある中で、3rdステージの子どもの学習活動における参加の保障への配慮が重要である。一方ですべての子どもの「できる」「わかる」を保障するためには1stステージの子どもの力を引き出すための工夫も忘れてはならない。よって常に、集団支援のみならず個別支援を考慮することが肝要である。

キーワード：特別支援教育、多層指導モデルMIM、特殊音節、語彙力、学力向上

### 1. 問題の所在

全国学力テストやPISAテストの結果を受けて、学力向上が課題と指摘されて久しい。一方で、アクティブラーニングや主体的・対話的、深い学びの追求など、新たな手法も含めて学校教育には様々な課題が提示され、その対応を求められている状況である。同時に通常の教育では十分に学習できない子どもを対象とした特別ニーズ教育や、特別な場での障害児を対象とした特殊教育から特別支援教育の転換も求められ、通常学級においても特別な支援が要求されるようになってきている。様々な課題が同時に求められる学校現場において何から着手すべきであろうか。

そのような中、A市では、学力向上と特別支援教育を両立させる策として、A市の全小学校および中学校<sup>1</sup>の1年生を対象に「多層指導モデルMIM（以下、MIM）」<sup>2</sup>を実施することを校長会で決定した。基本的に年間2回、MIMのアセスメント（以下MIM-PM）<sup>3</sup>を実施し、評価と振り返りを行うのである。学校によっては、複数回の実施、また1年から6年までを対象にMIM-PMを実施した

ところもある。

## 2. 研究の目的と方法

本稿では、2017年度のA市におけるMIM-PM実施に関しての結果を示す。その目的は、子どもの実態把握および子どもの多様性の可視化、そして想定される支援策の提示である。提示された支援策は各学校に伝えられ、実践において可能な限り反映させる。つまり、A市での読み能力に関する実態把握を行うこと、実態把握に基づいて介入策を検討することを目的とする。

方法は、まず2017年度6月から10月に、A市の全小中学校の1年生を対象にMIM-PMを実施する。その結果をMIMにおいて提示されている基準値を参照し、通常の学級内での効果的な指導対象としての1stステージの子どもを白色、通常学級内での補足的指導対象としての2ndステージの子どもを薄い網かけ、補足的、集中的、柔軟な形態による子に特化した指導対象としての3rdステージの子どもを濃い網かけにして示す<sup>4</sup>。本稿ではテスト①、テスト②、総合点それぞれについて、基準値を参照して、個別に色付けした。学校によっては、複数回、または自主的に1年から6年までMIM-PMを実施した学校もあるので、その点も考慮しつつ分析し、MIMにおいて示されている教材や関連先行研究も含めて支援方法を提案する。具体的には以下である。第一に各小学校1年の比較。第二に1回目と2回目の比較、第三に各学年の比較、第四に中学校1年の比較、とする。本結果を踏まえて、意図的な介入を行うことで、結果として得点の低い層のみならず得点の高い層にも、有効な支援策を検討し、全体の学力向上策を分析することを目的とする。ステージ判断のための基準値は表1である。また本稿では小学校1年に限定して結果と考察、支援方法を示すこととする。

表1 ステージ判断のための基準値 1年

|                     | 9月 | 10月 |
|---------------------|----|-----|
| 1st ステージ総合点         | 21 | 23  |
| 1st ステージテスト①        | 12 | 13  |
| 1st ステージテスト②        | 9  | 10  |
| 2nd ステージ(薄い網かけ)総合点  | 16 | 17  |
| 2nd ステージ(薄い網かけ)テスト① | 9  | 10  |
| 2nd ステージ(薄い網かけ)テスト② | 7  | 7   |
| 3rd ステージ(濃い網かけ)総合点  | 12 | 13  |
| 3rd ステージ(濃い網かけ)テスト① | 7  | 8   |
| 3rd ステージ(濃い網かけ)テスト② | 5  | 5   |

以上の基準値未滿を各ステージに区分した。テスト①とは、「絵に合うことば探し」であり、3つの選択肢の中から絵に合う語に丸をつける課題で、絵に合った正しい表記を瞬時に識別できるか、特殊音節の表記のルールがしっかりと入っているかをみる内容である。テスト②とは、「3つのことば探し」であり、3つの語が縦に続けて書いてあるものを素速く読んで、語と語の間を線で区切る課題で、瞬時にことばのまとまりをみつける力と、語彙力をみている内容である<sup>5</sup>。

## 3. 結果

以下に2017年6月～9月に小学校1年に実施したMIM-PMの結果を示す。各学級とも総合点の高い順に一覧表を作成した。実施日の早い順に以下に示す。

表2 B小学校 1年 8月実施

| 番号   | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1 | 57     | 31      | 26      | 番号 9  | 29     | 17      | 12      |
| 番号 2 | 56     | 34      | 22      | 番号 10 | 27     | 19      | 8       |
| 番号 3 | 55     | 33      | 22      | 番号 11 | 26     | 14      | 12      |
| 番号 4 | 44     | 26      | 18      | 番号 12 | 25     | 16      | 9       |
| 番号 5 | 38     | 26      | 12      | 番号 13 | 24     | 15      | 9       |
| 番号 6 | 37     | 24      | 13      | 番号 14 | 23     | 14      | 9       |
| 番号 7 | 35     | 21      | 14      | 番号 15 | 22     | 12      | 10      |
| 番号 8 | 35     | 23      | 12      | 番号 16 | 21     | 13      | 8       |

| 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|-------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 17 | 18     | 11      | 7       | 番号 21 | 16     | 10      | 6       |
| 番号 18 | 18     | 13      | 5       | 番号 22 | 14     | 7       | 7       |
| 番号 19 | 17     | 12      | 5       | 番号 23 | 13     | 10      | 3       |
| 番号 20 | 16     | 10      | 6       |       |        |         |         |

このように、B小学校1年では23名中、テスト①の2ndステージが1名のみである。またテスト②では、2ndステージが4名、3rdステージが1名である。結果として、総合点では2ndステージ2名になっている。実施時期が8月であったので、9月の基準値を使用しているが、本学級では語彙力強化を優先しつつ、覚えた言葉を使って文を作たり、日記を書いたりすることも有効であろう。また国語の時間や自分に合った読み物を用いつつ<sup>6</sup>、登場人物の気持ちや状態を多様な言葉で言語化したりすることで<sup>7</sup>、1stステージの子どもの強さを活用する実践が有効であると考えられる。そのうえで困難性のある子どもを念頭に、教員や周囲の子どもが、別の言葉で言いかえる練習やMIM教材のことは絵カード言葉の意味を練習する<sup>8</sup>などで、意味を理解しやすくする支援が有効であろう。特殊音節の2ndステージの子ども、語彙力の3rdステージの子どもは教員が意識的に実態把握や付加的な支援を入れていくことが重要である。

C小学校1年では14名中、テスト①の2ndステージが4名のみならず、3rdステージが9名である。またテスト②では、2ndステージが3名のみならず、3rdステージが9名である。結果として、総合点では2ndステージ2名、3rdステージが11名になっている。実施時期が9月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級ではMIMの視覚化や動作化<sup>9</sup>による特殊音節を意識する機会を増やすこと、語彙力強化のために抽象概念の説明の際には具体例を示すこと、子どもに随時意味を問うなどで語彙力を確認しつつ授業をすすめること、修得した語彙は日常の生活場面で意識して使用すること、身近なものを活用し語彙を増やすこと<sup>10</sup>、名詞と動詞、そして形容詞の順で語彙を増やすこと<sup>11</sup>、本人の理解力にあった読み物を提供して<sup>12</sup>読書を奨励することなどが有効であろう。

表3 C小学校 1年 9月実施

| 番号   | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1 | 19     | 11      | 8       | 番号 8  | 4      | 4       | 0       |
| 番号 2 | 14     | 8       | 6       | 番号 9  | 8      | 4       | 4       |
| 番号 3 | 14     | 6       | 8       | 番号 10 | 8      | 7       | 1       |
| 番号 4 | 11     | 6       | 5       | 番号 11 | 7      | 5       | 2       |
| 番号 5 | 11     | 7       | 4       | 番号 12 | 4      | 3       | 1       |
| 番号 6 | 10     | 8       | 2       | 番号 13 | 3      | 3       | 0       |
| 番号 7 | 9      | 4       | 5       | 番号 14 | 2      | 2       | 0       |

D小学校1年では22名中、テスト①の2ndステージが8名、3rdステージが4名である。またテスト②では、2ndステージが2名のみならず、3rdステージが10名である。結果として、総合点では2ndステージ4名、3rdステージが9名になっている。実施時期が9月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級では2ndステージの子どもを意識しつつ、MIM教材の「ちょっとかわったよみかたのかきとりしゅう」<sup>13</sup>でステージに合わせて特殊音節を書く機会を増やすこと、MIM教材の「はやくちことば」などを用いて日常的に既習内容に触れる機会を豊富に用意することも重要であろう<sup>14</sup>。国語学習も関連する絵を用意するなど内容を確認しつつ進めること<sup>15</sup>、丸をつけるなどの読解のスキルを身に着けることとともに<sup>16</sup>、3rdステージの子どもの実態把握を行うことが重要であろう。とくに語彙力強化が課題となっているので、普段から身の回りにあるものの名前を教えつつ<sup>17</sup>、抽象概念の説明の際には具体例を示すこと、子どもに随時意味を問うなどで語彙力を確認

することや、話し合い活動では「果物」などの種類別に言葉を探すなど<sup>18</sup>「いろんな」好きなことを出し合うなどで、多様な言葉を学習する機会を設定することが有効であろう。

表4 D小学校 1年 9月実施

| 番号   | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1 | 33     | 22      | 11      | 番号 9  | 9      | 8       | 1       |
| 番号 2 | 18     | 11      | 7       | 番号 10 | 8      | 7       | 1       |
| 番号 3 | 15     | 8       | 7       | 番号 11 | 8      | 5       | 3       |
| 番号 4 | 15     | 9       | 6       | 番号 12 | 8      | 4       | 4       |
| 番号 5 | 12     | 7       | 5       | 番号 13 | 7      | 4       | 3       |
| 番号 6 | 12     | 8       | 4       | 番号 14 | 7      | 7       | 0       |
| 番号 7 | 11     | 7       | 4       | 番号 15 | 4      | 3       | 1       |
| 番号 8 | 11     | 8       | 3       |       |        |         |         |

E小学校1年では18名中、テスト①の2ndステージが4名のみならず、3rdステージが8名である。またテスト②では、2ndステージが3名のみならず、3rdステージが9名である。結果として、総合点では2ndステージ3名、3rdステージが11名になっている。実施時期が10月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級ではMIMの動作化や特殊音節の学習の際に、ペア学習などを活用することで、6名の1stステージの子どもと2nd・3rdステージの子どものペアで力を伸ばすことと、1stステージ、2ndステージ、3rdステージそれぞれのグループ学習を行いつつ教員が3rdステージにとくに介入することで、3rdステージの支援の保障と1stステージの子どもの能力の一層の向上を目指すことが重要であろう。また1stステージ、2ndステージ、3rdステージそれぞれの組み合わせを考慮しつつ、一緒に音読することも有効であろう<sup>19</sup>。語彙力強化のためには、1stステージと3rdステージの二極化を鑑み、一斉指導では2nd・3rdステージの子どもの発言の機会を保障しつつ、1stステージの子どもの語彙を習得してほしい語彙の具体例として示す、抽象概念の説明の際には1stステージの子どもに説明を求めるなどもそれぞれの能力を伸ばすという観点では有効であろう。ひらがなやカタカナ表を使用することも支援になる<sup>20</sup>。

表5 E小学校 1年 10月実施

| 番号   | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1 | 25     | 15      | 10      | 番号 10 | 11     | 6       | 5       |
| 番号 2 | 20     | 10      | 10      | 番号 11 | 11     | 9       | 2       |
| 番号 3 | 20     | 10      | 10      | 番号 12 | 11     | 8       | 3       |
| 番号 4 | 20     | 10      | 10      | 番号 13 | 8      | 4       | 4       |
| 番号 5 | 18     | 10      | 8       | 番号 14 | 7      | 7       | 0       |
| 番号 6 | 17     | 10      | 7       | 番号 15 | 7      | 7       | 0       |
| 番号 7 | 14     | 9       | 5       | 番号 16 | 5      | 4       | 1       |
| 番号 8 | 13     | 8       | 5       | 番号 17 | 1      | 1       | 0       |
| 番号 9 | 16     | 7       | 9       | 番号 18 | 1      | 1       | 0       |

F小学校1年では7名中、テスト①の2ndステージが2名、3rdステージが1名である。またテスト②では、3rdステージが1名である。総合点では3rdステージが1名である。実施時期が9月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級ではテスト①、テスト②、総合点で3rdステージの子ども1名を加力や授業中の机間指導や座席の配慮などで意識的に支援し、2ndステージ2名の子どもは特殊音節を書く課題において、誤答がないかを確認すること、誤答の際は正解を見せて選ばれる（視覚）、一緒に正解を読む（聴覚）、動作化（運動感覚）など多様な感覚を用いて<sup>21</sup>、3rdステージの子どもの得意な学び方を見つけつつ、反復強化することが有効であろう。

表6 F小学校 1年 9月実施

| 番号  | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号  | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|-----|--------|---------|---------|-----|--------|---------|---------|
| 番号1 | 22     | 12      | 10      | 番号5 | 19     | 8       | 11      |
| 番号2 | 22     | 12      | 10      | 番号6 | 17     | 7       | 10      |
| 番号3 | 24     | 12      | 12      | 番号7 | 7      | 5       | 2       |
| 番号4 | 19     | 10      | 9       |     |        |         |         |

G小学校1年では11名中、テスト①の3rdステージが8名である。またテスト②では、2ndステージが2名のみならず、3rdステージが7名である。結果として、総合点では3rdステージが8名になっている。実施時期が10月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級では文字の読みを絵と組み合わせて学んだり<sup>22</sup>、長い文章を読むときは写真をヒントにしたりする<sup>23</sup>などの視覚化、MIMの動作化による特殊音節を意識する機会を増やすこと、その際には1stステージの3名は前に出てモデルにもなってもらうなどの機会の設定も考慮できる。教員と3名の子どもがモデルになれば3人グループでのリーダーとなって問題の提示、動作化、回答者などのクイズ形式での動作化練習<sup>24</sup>も可能であろう。全体としても特殊音節の反復練習の機会は意識的に設定することが重要である。語彙力強化のために抽象概念の説明の際には具体例を示すこと、子どもに随時意味を問うなどで語彙力を確認しつつ授業をすすめること、修得した語彙は日常生活場面で意識して使用すること、それぞれの子どもに応じた読書を奨励することなどが有効であろう。1年生であるので絵本や本の読み聞かせを行い<sup>25</sup>、自分で絵本や本を読む意識を高めること、覚えた言葉を使って文を作ることも推奨したい。

表7 G小学校 1年 10月実施

| 番号  | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号   | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|-----|--------|---------|---------|------|--------|---------|---------|
| 番号1 | 23     | 13      | 10      | 番号7  | 9      | 7       | 2       |
| 番号2 | 21     | 12      | 9       | 番号8  | 9      | 6       | 3       |
| 番号3 | 17     | 11      | 6       | 番号9  | 6      | 4       | 2       |
| 番号4 | 12     | 7       | 5       | 番号10 | 5      | 4       | 1       |
| 番号5 | 11     | 7       | 4       | 番号11 | 2      | 2       | 0       |
| 番号6 | 10     | 6       | 4       |      |        |         |         |

H小学校1年では25名中、テスト①の2ndステージが4名のみならず、3rdステージが19名である。またテスト②では、2ndステージが4名のみならず、3rdステージが18名である。結果として、総合点では2ndステージ2名、3rdステージが21名になっている。実施時期が10月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級では2名の1stステージ以外の子どもは何かの困難性を呈していると言える。とくにテスト①、テスト②どちらかの点数が低く総合点が低くなっている子どももいるので、テスト①、テスト②の反復練習は苦手な分野をより多くできる組み合わせでの提供<sup>26</sup>が有効であろう。反復練習を楽しく行うためにMIMの動作化による特殊音節を意識する場面では、①問題を動作化すること、②問題を読むこと、③問題を見ることの課題を分けて、全て一度にできなくても得意な方法で頑張るなどとして、負担感を軽減する工夫も必要であろう。語彙力強化のためには国語の授業のみならず日常生活場面でも抽象概念の説明の際には具体例を示したり、言い換えたりすること、気持ちを言葉にする訓練で語彙を強化すること、言葉遊びやことばに触れる機会を意図的に作るためにリズムも用いたり<sup>27</sup>などを取り入れることも有効であろう。



表8 H小学校 1年 10月実施

| 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|-------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1  | 24     | 12      | 12      | 番号 14 | 9      | 4       | 5       |
| 番号 2  | 20     | 12      | 8       | 番号 15 | 8      | 6       | 2       |
| 番号 3  | 14     | 9       | 5       | 番号 16 | 8      | 7       | 1       |
| 番号 4  | 14     | 7       | 7       | 番号 17 | 8      | 5       | 3       |
| 番号 5  | 11     | 8       | 3       | 番号 18 | 6      | 4       | 2       |
| 番号 6  | 11     | 7       | 4       | 番号 19 | 6      | 5       | 1       |
| 番号 7  | 11     | 7       | 4       | 番号 20 | 6      | 3       | 3       |
| 番号 8  | 11     | 7       | 4       | 番号 21 | 6      | 6       | 0       |
| 番号 9  | 10     | 7       | 3       | 番号 22 | 6      | 4       | 2       |
| 番号 10 | 10     | 5       | 5       | 番号 23 | 5      | 4       | 1       |
| 番号 11 | 10     | 8       | 2       | 番号 24 | 5      | 5       | 0       |
| 番号 12 | 10     | 5       | 5       | 番号 25 | 4      | 2       | 2       |
| 番号 13 | 10     | 8       | 2       |       |        |         |         |

I 小学校 1年では21名中、テスト①の2ndステージが6名のみならず、3rdステージが8名である。またテスト②では、2ndステージが6名のみならず、3rdステージが10名である。結果として、総合点では2ndステージ7名、3rdステージが9名になっている。実施時期が10月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級では1stステージ、2ndステージ、3rdステージの子どもがそれぞれ同じくらいの比率であるので、各層に意識的に役割を持たせ一斉指導を組んだり、課題を1つの冊子やファイルで渡し、それぞれの進度に応じて同じ時間集中したり、その時間に受ける教員からの支援の差をつけるなどで、同じ時間頑張る、ただ進度や支援の差はあってもよい<sup>28</sup>など学びの多様性を意識してかかわることを試行したい。学級の半分が3rdステージであることを考慮しつつ、抽象概念の説明の際には具体例を示すこと、あらずじや見どころを前もってしらせることで理解を助ける<sup>29</sup>、1stステージの子どもには知っている関連する言葉を発表させつつ、発言を板書し全体で復唱して、全体の語彙力強化を図ること、修得した語彙は日常の生活場面で意識して使用すること、机間指導で実態を把握しておくこと<sup>30</sup>などが有効であろう。

表9 I小学校 1年 10月実施

| 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|-------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1  | 25     | 16      | 9       | 番号 12 | 13     | 9       | 4       |
| 番号 2  | 23     | 16      | 7       | 番号 13 | 12     | 7       | 5       |
| 番号 3  | 21     | 14      | 7       | 番号 14 | 11     | 8       | 3       |
| 番号 4  | 18     | 10      | 8       | 番号 15 | 10     | 5       | 5       |
| 番号 5  | 20     | 14      | 6       | 番号 16 | 8      | 6       | 2       |
| 番号 6  | 16     | 9       | 7       | 番号 17 | 8      | 5       | 3       |
| 番号 7  | 15     | 9       | 6       | 番号 18 | 8      | 5       | 3       |
| 番号 8  | 14     | 9       | 5       | 番号 19 | 6      | 4       | 2       |
| 番号 9  | 13     | 8       | 5       | 番号 20 | 5      | 4       | 1       |
| 番号 10 | 15     | 11      | 4       | 番号 21 | 5      | 3       | 2       |
| 番号 11 | 14     | 10      | 4       |       |        |         |         |

J 小学校 1年では22名中、テスト①の2ndステージが1名、3rdステージが11名である。またテスト②では、2ndステージが8名のみならず、3rdステージが9名である。結果として、総合点では2ndステージ4名、3rdステージが11名になっている。実施時期が10月であり基準値が高いことを考慮しつつも、本学級ではまず、全般にテスト②に困難性を示している集団であろうこと、テスト①とテスト②の差が顕著な子どもが多いことから、語彙力の強化を主とした意図的介入が有効であろう。共通点を有する言葉を想起するゲーム<sup>31</sup>、取り上げる語彙に特殊音節を含むものを多用す

る<sup>32</sup>と、テスト①の力の強化にもなる。修得した語彙は日常の生活場面で意識して使用すること、読書を奨励することなどで日常的にも意識する機会を増やすことが有効であろう。

表10 J小学校 1年 10月実施

| 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 | 番号    | テスト総合点 | テスト①正答数 | テスト②正答数 |
|-------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|
| 番号 1  | 26     | 15      | 11      | 番号 12 | 11     | 5       | 6       |
| 番号 2  | 20     | 12      | 8       | 番号 13 | 11     | 6       | 5       |
| 番号 3  | 19     | 11      | 8       | 番号 14 | 11     | 7       | 4       |
| 番号 4  | 19     | 12      | 7       | 番号 15 | 10     | 10      | 0       |
| 番号 5  | 22     | 16      | 6       | 番号 16 | 10     | 5       | 5       |
| 番号 6  | 20     | 14      | 6       | 番号 17 | 8      | 6       | 2       |
| 番号 7  | 17     | 11      | 6       | 番号 18 | 8      | 5       | 3       |
| 番号 8  | 15     | 10      | 5       | 番号 19 | 8      | 7       | 1       |
| 番号 9  | 15     | 9       | 6       | 番号 20 | 8      | 6       | 2       |
| 番号 10 | 14     | 10      | 4       | 番号 21 | 7      | 6       | 1       |
| 番号 11 | 14     | 7       | 7       | 番号 22 | 6      | 4       | 2       |

#### 4. 対応策

対応策として、以下の写真1、写真2のような本来のMIM-PMプリントの3段を1段にする教材作成を行い、日常的に取り組むことを考えている。

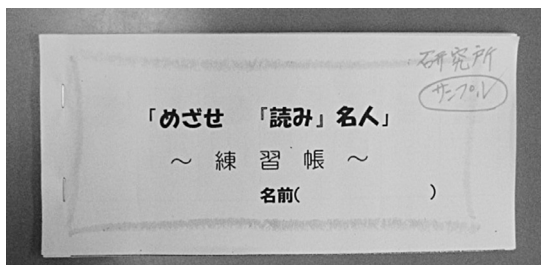


写真1 めざせ「読み」名人練習帳表紙

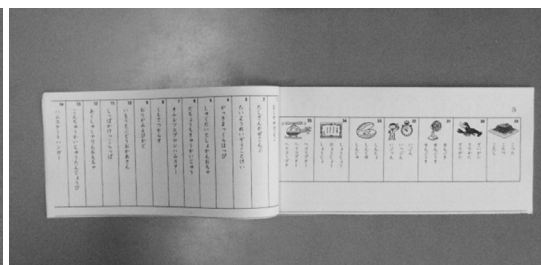


写真2 めざせ「読み」名人練習帳中身

この教材を用いて、1月下旬の2回目に向けて、1月始業式から「1週間集中」など、できる手立てを提案して、実施可能な小中学校には実施してもらい、成果を見る予定である。1月実施の学力テスト等との結果とも関連付けて考察、分析することもめざしたい。今年度の目標はMIM-PMの第1回目実施による実態把握であり、実態把握に基づいた具体的な支援の提案、そして着手である。MIM-PMの第2回目実施も予定されているため、今後は早期発見を念頭に、特に低学年の1、2年を対象にMIM-PMを実施することと、読みの困難を持っている個別の子どもに対してMIM-PMの結果を意識した支援を実施することになるであろう。

#### 5. 小括

本稿では、今年度のA市におけるとくに小学校1年のMIM-PM実施に関しての結果を示した。MIM-PMではテスト①で絵に合った正しい表記の瞬時の識別および特殊音節の表記のルールについてみており、テスト②では、瞬時にことばのまとまりをみつける力と、語彙力をみている。よって本稿では、MIM-PMの結果を考慮しつつ、特殊音節の練習と語彙力の向上に着目して支援策を検討した。

特殊音節の練習のためには、特殊音節に関しては、全体としても特殊音節の反復練習の機会を意識的に設定することとして、MIMの視覚化や動作化が挙げられる。1stステージ、2ndステージ、

3rdステージそれぞれの組み合わせを考慮しつつ、一緒に音読することのみならず、特殊音節の学習の際にもペア・グループ学習が活用できる。そのことは一斉指導のみならず、特殊音節を意識する機会を増やすことにつながる。ペア・グループ学習の際には、1stステージの子どもは前に出てモデルにもなってもらえるなどの機会の設定も考慮できる。グループで、問題の提示、動作化、回答などのクイズ形式での動作化練習も可能であろう。

ペア・グループ学習の際には、1stステージの子どもと2nd・3rdステージの子どものペアやグループで力を伸ばすことと、1stステージ、2ndステージ、3rdステージそれぞれのグループ学習を行いつつ教員が3rdステージにとくに介入することで、3rdステージの支援の保障と1stステージの子どもの能力の一層の向上を目指すことを追求したい。反復練習を楽しく行うためにMIMの動作化による特殊音節を意識する場面では、①問題を動作化すること、②問題を読むこと、③問題を見ることの課題を分けて、全て一度にできなくても得意な方法を見つかるなどとして、負担感を軽減し、達成感を保障する工夫も必要であろう。共通点を有する言葉を想起するゲームなどで取り上げる語彙に特殊音節を含むものを多用することも有効である。

語彙力強化のために、「読む」こととしては、自分に合った読み物を用いつつ、登場人物の気持ちや状態を多様な言葉で言語化したり、動作化したりすること、抽象概念の説明の際には具体例を示すこと、子どもに随時意味を問うこと、支援が必要な場合は文字の読みを絵と組み合わせて学んだり、関連する絵を用意したりするなどして内容を確認しつつ進めること、長い文章を読むときは写真等の視覚教材をヒントにすること、丸をつけるなどの読解のスキルを身に着けることも重要である。1年生を対象にした場合は、絵本や本の読み聞かせを行い、自分で絵本や本を読む意識を高めること、覚えた言葉を使って文を作ることも良い。自分で読む場合もあらずじや見どころを前もって知らせることで理解を助けることも有用である。2nd・3rdステージの子どもは意識的に実態把握や付加的な支援を柔軟に行い、本人の理解力にあった読み物を提案することが読書の楽しみにつながる。

「使用」として、修得した語彙は日常の生活場面で意識して使用すること、身近なものを活用し語彙を増やすこと、普段から身の回りにあるものの名前を教えること、その際には名詞や動詞、そして形容詞の順で語彙を増やすことなどが指摘できる。

「話す」としては、話し合い活動として「果物」や「乗り物」などの種類別に言葉を探したり、子どものいろんな「好きなこと」を出し合ったりすることで、多様な言葉を学習する機会を設定する。気持ちを言葉にする練習を行ったり、ことばに触れる機会を意図的に作るためにリズムも用いたりとりを取り入れたたりすることもゲーム感覚で楽しく取り組めると考える。MIM教材のことは絵カードの言葉の意味を練習する際にも、子ども集団でゲームのように提示することがよい。

「文章の作成」としては、覚えた言葉を使って文を作ったり、日々の算数日記や可能であれば日記や作文指導の際に文章を書いたりすることが考えられる。

1stステージや2ndステージ、3rdステージの子どもが可視化したのちには、集団指導と個別指導の配慮が重要である。集団指導としては、学力の差を鑑み、一斉指導で2nd・3rdステージの子どもの発言の機会を保障しつつ、1stステージの子どもの語彙を、学級みんなに習得してほしい語彙の具体例として示すこと、抽象概念の説明の際には1stステージの子どもに説明を求めること、1stステージの子どもの知っている言葉を発表させつつ発言を板書し、全体で復唱して、全体の語彙力強化を図ることなどが考えられる。それらは、1stステージの子どもの強さを活用する実践となり「それぞれの能力を伸ばす」という観点では有効であろう。3rdステージ支援を念頭に、必要な子どもにはひらがな表やカタカナ表を使用すること、教員や1stステージの子どもが、なじみのない言葉を別の言葉で言いかえる練習をすることも2nd・3rdステージの子どもの支援になる。



2nd・3rdステージの子どもを加力や授業中の机間指導、座席の配慮などで意識的に支援し、誤答がないかを確認すること、誤答の際は正解を見せて選ばせる（視覚）、一緒に正解を読む（聴覚）、一回正解を書かせる動作化（運動感覚）など多様な感覚を用いて、それぞれの子どもの得意な学び方を見つけつつ、反復強化することが有効であろう。

MIM教材としては「ちょっとかわったよみかたのかきとりしゅう」でステージに合わせて特殊音節を書く機会を増やすこと、MIM教材の「はやくちことば」などを用いて日常的に既習内容に触れる機会を豊富に用意するなどにも有用である。

また、テスト①、テスト②の反復練習は苦手な分野をより多くできる組み合わせで提供されるべきである。課題を1つの冊子やファイルで渡し、それぞれの進度に応じて同じ時間取り組んだり、その時間に受ける教員からの支援に差をつけたりするなど、学びの多様性を意識してかかわることを試行したい。

以上のようにMIM-PM第1回目の結果として、子どもの実態把握は極めて多様であり、学級規模にかかわらず、1stステージ、2ndステージ、3rdステージの子どもの割合は様々である学級集団が可視化された。そのような個々の子どもの多様性のみならず、集団としての多様性を考慮して、想定される支援策をまずは一斉指導の場で試行してみることが必要であろう。その後第2回目のMIM-PMや学力テストの結果を参照し、介入策の再検討を行うことが重要である。

また小規模学級や単学級の学校などでは人間関係が固定化してしまうため、1stステージ、2ndステージ、3rdステージと修得段階に差がある中で、3rdステージの子どもの一斉指導における参加の保障への配慮が必要である。同時にすべての子どもの「できる」「わかる」を保障するためには1stステージの子どもの力を引き出すための発展問題や、より高次の課題設定なども忘れてはならない。よって常に、集団支援のみならず個別支援を考慮することが必要である。

語彙力の修得においては、新しい単語を読む、知らない言葉の場合は意味を調べる、音や読み方の確認、他者の言葉の使用場面を聞く、文脈として理解できるよう例文を読む、自ら新しい単語を話す、自ら新しい単語を用いて文書を書くなどの段階が考えられる。支援が必要な子どもの場合には、新しい単語は読んでもらう、そのためには本読みを一緒に行う、小学校1年であれば読み聞かせを行うなども有効である。知らない言葉の場合は意味を調べるが、小学校1年で辞書引きが困難であるならば言葉が意味するものを絵や写真、ジェスチャーなどで視覚的にも確認することが重要である。言葉の読みが困難な場合は1度読んだだけでは定着しないので、音や読み方について教員が1stステージの子どもの意識的に多用し、日常場面で繰り返し聞く機会を設定することもよい。文脈として理解できるように例文を読むためには、漢字ドリルの例文を参考に自分でも作文することも支援となる。1stステージの子どもの回答を例文として使用してもよい。そのうえで新しい単語を限定して指定して話したり、日記や作文に使用するように促したりするなど、語彙力強化のための個別指導が集団指導とともに追求されるべきである。

## 註・引用文献

<sup>1</sup> 中学校1年については小学校6年の基準を援用した。

<sup>2</sup> 多層指導モデルMIM Webサイト, <http://forum.nise.go.jp/mim/> (2017年11月30日参照)。

<sup>3</sup> 多層指導モデルMIM Webサイト, MIMのアセスメントMIM-PM, [http://forum.nise.go.jp/mim/?page\\_id=29](http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=29) (2017年11月30日参照)。

<sup>4</sup> 多層指導モデルMIM Webサイト, MIMとは[http://forum.nise.go.jp/mim/?page\\_id=27](http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=27) (2017年11月30日参照)。

<sup>5</sup> 多層指導モデルMIM Webサイト, MIM Q&A, [http://forum.nise.go.jp/mim/index.php?page\\_id=19](http://forum.nise.go.jp/mim/index.php?page_id=19)

(2017年11月30日参照).

- 6 榊原洋一, 佐藤暁著, 日本版PRIM 作成委員会編 (2014) 『発達障害のある子のサポートブック』 学研, p.226.
- 7 小池敏英監修 (2016) 『LDの子の読み書き支援がわかる本』 講談社, pp.90-91.
- 8 多層指導モデルMIM Webサイト, MIMの指導法・教材の内容, [http://forum.nise.go.jp/mim/?page\\_id=32#101](http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=32#101) (2017年11月30日参照).
- 9 多層指導モデルMIM Webサイト, MIMの指導法・教材の内容, [http://forum.nise.go.jp/mim/?page\\_id=32#101](http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=32#101) (2017年11月30日参照).
- 10 鴨下賢一 (2016) 『発達が気になる子への読み書き指導ことはじめ』 中央法規, p.21.
- 11 同上, 鴨下賢一 (2016), p.19.
- 12 前掲6, 榊原洋一, 佐藤暁著, 日本版PRIM 作成委員会編 (2014) p.227.
- 13 多層指導モデルMIM Webサイト, MIMの指導法・教材の内容, [http://forum.nise.go.jp/mim/?page\\_id=32#101](http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=32#101) (2017年11月30日参照).
- 14 多層指導モデルMIM Webサイト, MIMの指導法・教材の内容, [http://forum.nise.go.jp/mim/?page\\_id=32#101](http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=32#101) (2017年11月30日参照).
- 15 国立特殊教育総合研究所 (2005) 『LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド』 東洋館出版社, pp.20-21.
- 16 同上, 国立特殊教育総合研究所 (2005) pp.20-21.
- 17 前掲10, 鴨下賢一 (2016) p.20.
- 18 前掲7, 小池敏英監修 (2016) pp.80-81.
- 19 前掲6, 榊原洋一, 佐藤暁著, 日本版PRIM 作成委員会編 (2014) p.226.
- 20 山田智子 (2007) 『LDの子どもへのサポート&指導事例集』 学事出版, p.32.
- 21 小栗正幸 (2011) 『行為障害と非行のことがわかる本』 講談社, pp.60-61.
- 22 前掲7, 小池敏英監修 (2016) pp.82-83.
- 23 前掲7, 小池敏英監修 (2016) pp.94-95.
- 24 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) パンツ&クイズ『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, pp.52-53.
- 25 前掲6, 榊原洋一, 佐藤暁著, 日本版PRIM 作成委員会編 (2014) p.228.
- 26 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) 『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, pp.30-33.
- 27 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) トントンしりとり『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, pp.48-49.
- 28 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) 『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, pp.82-83.
- 29 前掲6, 榊原洋一, 佐藤暁著, 日本版PRIM 作成委員会編 (2014) p.227.
- 30 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) 机間指導の際の児童観察のポイント『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, p.83.
- 31 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) ○○なぁに?ゲーム『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, pp.50-51.
- 32 海津亜希子, 杉本陽子 (2016) ちっちゃい「つ」のつくことは集めゲーム『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な読みの指導』 学研, p.54.